© The Tiffen Company, 2000
KODAK Gray Scale
Kodak
LICENSED PRODUCT

ヲ 6
1538
6

和漢名將勇士競

日本の方

大関 六孫王經基
関脇 楠正成
小結 平重盛
前頭 源義經
前頭 木曾義仲
前頭 和田義盛
前頭 能登守教經
前頭 畠山重忠
前頭 平知盛
前頭 新田義貞
前頭 源爲朝
前頭 村上義輝
前頭 三浦義明
前頭 名和長年
前頭 武藏坊弁慶
前頭 朝比奈義秀
前頭 源頼政
前頭 田原秀郷
前頭 平貞盛
前頭 佐々木盛綱
前頭 佐々木高綱

行司 源滿仲
源義家

頭取 源頼光
源頼朝

勸進元 源頼朝
足利尊氏

差添人

脇屋義助
上総景清
大江廣元
巴御前
赤松圓心
楠正行
兒嶋高德
曾我祐成
同時致
北条泰時
新田義興
泉忠衡
楠正儀
佐藤嗣信
同忠信
宇都宮公綱
平井保昌
北畠顯家
越中前司盛俊
平忠度
奇藤実盛
小山田高家
那須宗高
鎌倉景政

長谷部信連
熊谷直實
俱野景久
岡部忠澄
手塚光盛
仁田忠常
渡辺綱
坂田金時
碓氷貞光
卜部季武
今井四郎
樋口次郎
猪俣小四郎
根井大弥太
亀井六郎
庁岡八郎
伊勢三郎
駿河次郎
栗生左エ門
篠塚伊賀守
畑六良左エ門
直新左エ門
梶原景季
長田義実
[illegible]

和漢名将勇士號

漢土の方

大関 カンノ カウソ
関脇 シヨクノ コウイ
小結 カンノ チヤウヨ
前頭 シヨクノ シクワンウ
前頭 シヨクノ チヤウヒ
前頭 シヨクノ テウウン
前頭 カンノ カンシン
前頭 ゴノ シユユ
前頭 カンノ チンヘイ
前頭 フノ コウウ
前頭 エツノ ハンビイ
前頭 ソノ ハンザウ
前頭 シヨクノ キヤウイ
前頭 カンノ ハンクワイ
前頭 セイノ ソンヒン
前頭 タウノ バウテンイ
前頭 ギノ ゴキ
前頭 カンノ レユボツ
前頭 カレノ ミヤウガ
前頭 セイノ デンタン
前頭 タウノ ギテウ

漢 高祖明
蜀 孔明良
蜀 張飛羽
蜀 関平瑜
蜀 張飛
漢 陳平
呉 周瑜
漢 韓信
蜀 趙雲
楚 項羽
漢 范増
趙 張耳
楚 范増
蜀 姜維
漢 樊噲
齊 孫臏
唐 房玄齢
魏 呉起
漢 周勃
漢 蕭何
齊 田単
唐 魏徵

行司 ゴノ ヒンケン 呉孫権 ヒイノ ケンケン 齊管仲

頭取 シヨクノ ハウトウ 蜀龐統 シヨクノ ヒニン 祝融夫人 ゴノ チヤウセウ 呉張昭 ソウノ ガクヒ 宋岳飛 ゴノ リクソン 呉陸遜 エンノ ガクキ 燕樂毅 レンノ ヨギヤウ 晉豫讓 ソノ ゴシヨ 楚伍子胥 シヨクノ バテウ 蜀馬超 レヨクノ クワウチウ 蜀黄忠 カンノ ギヨシヨ 漢徐庶 カンノ ヒ 漢呂布 ギノ キヨチヨ 魏許褚 ギノ テンイ 魏典韋 ゴノ リヨマウ 呉呂蒙 セイノ モウヤウケン 齊孟嘗君 ソノ シユンシユン 楚春申君 ギノ シンリヨク 魏信陵君 チヤウノ ヘイゲンクン 趙平原君 ゴノ キサウ 呉季札 シヨクノ クワンコウ 蜀関羽 シヨクノ チヤウハウ 蜀張苞 ゴノ クワウガイ 呉黄蓋 カンノ ケイフ 漢黥布

司馬仲達 シバノ チウタツ 勧進元 シヨクノ ゲントク 蜀玄徳

司馬徽 シバノ キ 差添人 ギノ サウ 魏曹操

ソノ コウソウ 楚項荘 エツノ ブンシユ 越文種 ギノ カヨウエン 魏夏侯惇 ギノ カヨウエン 魏夏侯淵 ギノ ウリン 魏于林 ギノ ガクシン 魏樂進 レンノ シヤウカン 秦章邯 ギノ チンゼウ 楚陳涉 リウフ ソレン 六國蘇秦 レンノ チヤウギ 秦張儀 ギノ ハウトク 魏龐德 レンノ ニウテン 秦蒙恬 カンノ リウヒ 漢李廣 カンノ バンエン 漢馬援 レンノ トヨ 晉杜預 シンノ ヨウコ 晉羊祜 カンノ リサヤ 漢李左車 ギノ トウガイ 魏鄧艾 ギノ シヤウヒ 魏鍾會 ゴノ ロヒユウ 呉魯肅 カンノ ハウチウ 漢彭越 シヨクノ ビチク 蜀糜竺 シヨクノ ビヨウ 蜀糜芳 シヨクノ セウエン 蜀蔣琬 ゴノ シウケイ 呉周泰

神社祭禮佛閣法會 浪華名詣大數望

行司

二月初午祭 毎月八日 大惠方祭 巡

頭取

正月十三日 住吉 座摩 宮 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

正月十九日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

二月三日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

十月九日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

大門 八間 結 前頭

六月廿日 住吉 難波 祭

正月七日 住吉 難波 祭

六月十四日 住吉 難波 祭

五月六日 住吉 難波 祭

九月十三日 住吉 難波 祭

六月廿日 住吉 難波 祭

同十七日 住吉 難波 祭

同廿八日 住吉 難波 祭

同廿一日 住吉 難波 祭

同十五日 住吉 難波 祭

同十四日 住吉 難波 祭

同十五日 住吉 難波 祭

同十四日 住吉 難波 祭

同廿日 住吉 難波 祭

同十四日 住吉 難波 祭

七月六日 住吉 難波 祭

同廿八日 住吉 難波 祭

正月九日 住吉 難波 祭

六月廿日 住吉 難波 祭

四月十五日 住吉 難波 祭

七月八日 住吉 難波 祭

同十五日 住吉 難波 祭

九月十六日 住吉 難波 祭

同廿一日 住吉 難波 祭

同十七日 住吉 難波 祭

四月八日 住吉 難波 祭

世話人

勧進元 毎月 年寄 六度 難波深人

西之方 天王寺庚申祭

住吉弁財天祭

住吉 難波 祭

住吉 御田植 祭

住吉 御田植 祭

同 寶市 祭

同 寶市 祭

任生 御霊 祭

座摩 宮 夏祭

高津宮 夏祭

三津八幡 夏祭

難波住吉 天皇 夏祭

長町 鬼少門 祭

難波 祇園 祭

九条 住吉 祭

傳法 經宗 施餓鬼 祭

同 浄土宗 施餓鬼 祭

西宮 戎 祭

永代濱 住吉 祭

天王寺 五坪 祭

七度濱 踊念佛 祭

網敷 天神 祭

櫻宮 太神宮 祭

名塩 八幡 祭

池田 穴織 祭

能勢 妙見 法會 祭

住吉 座摩 宮 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

正月十三日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

正月十九日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

二月三日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

十月九日 住吉 紀州 野里村 一ノ宮 女郎 富 戎 祭

神社祭禮佛閣法會 浪華名所詣大歸閣

勧進元 毎月 生玉寺 天王寺 東之方 天満宮 天神 夏祭

大関 六月廿五日 天王寺三講會
小関 正月十日 修正會
前頭 正月十五日 同 生魂供
前頭 二月十五日 同 大般若
前頭 九月十五日 同
前頭 正月廿五日 同
前頭 六月一日 同
前頭 十月十五日 同
前頭 四月八日 同
前頭 七月十五日 同
前頭 二月十五日 同
前頭 四月八日 同
前頭 正月十四日 同
前頭 十月十五日 同
前頭 六月一日 同
前頭 七月廿五日 同
前頭 六月十四日 同
前頭 正月二日 同
前頭 同十六日 同
前頭 八月十九日 同
前頭 二月一日 同
前頭 九月十八日 同
前頭 七月十日 同

天王寺 今宮 天神 夏祭
同 聖霊会
同 満願寺 涅槃会
天満宮 念仏会
西方寺 灌頂会
天王寺 千日参会
同 十夜会
同 夜参会
天王寺 寺宝開帳
天王寺 千日参会
天王寺 十夜会
天王寺 千日参会
天王寺 十夜会
天王寺 千日参会
天王寺 十夜会

とくさい見立相撲

勸進元　いそぎりといふて　そろく帳を夾

東之方

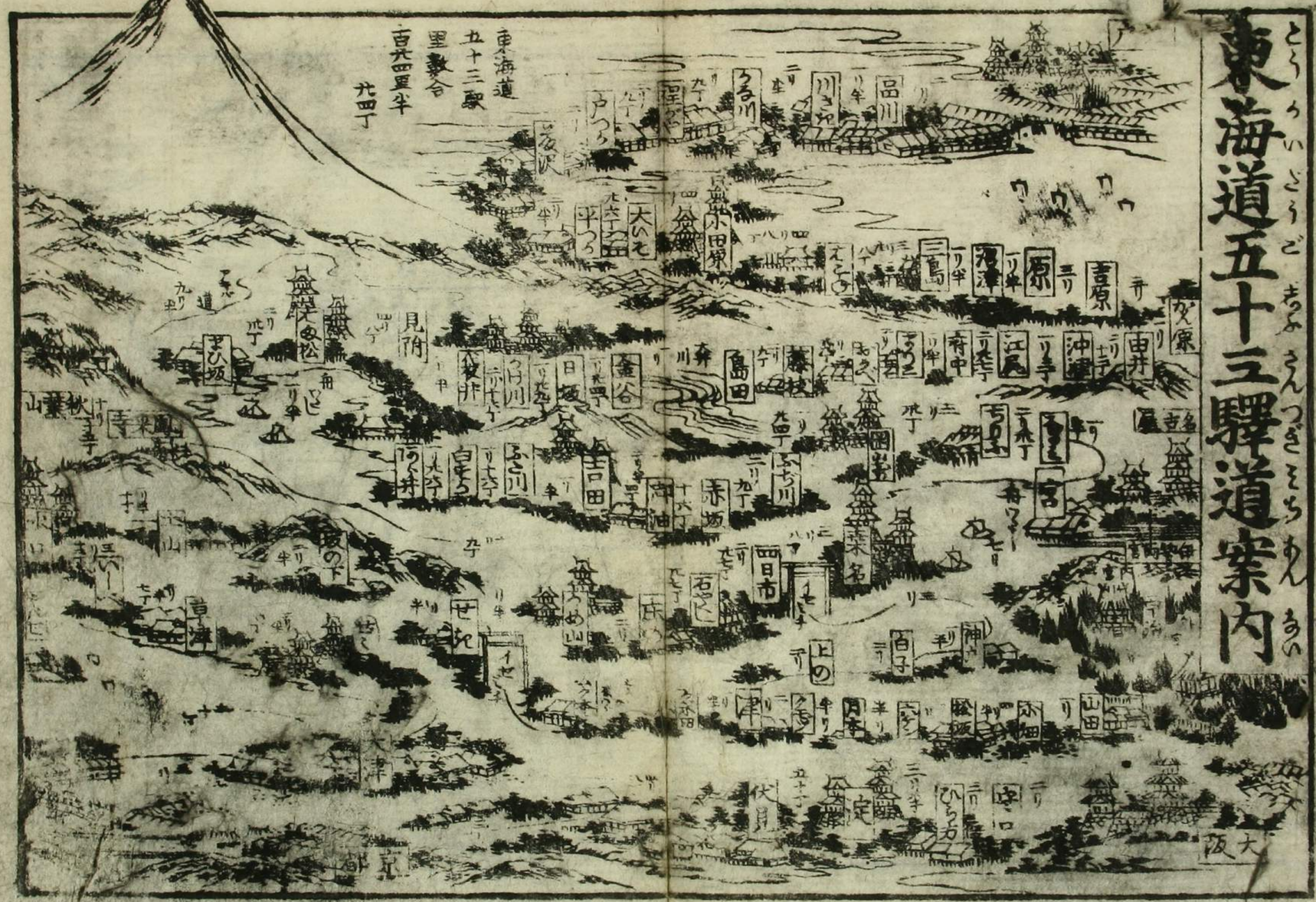
大関　さかとのされさとあ〜ふりげてあるく人
関脇　ちゐ〜やさるゐまちと　出〜て見せるの
小結　にゐのつさよゐぬぐひ　うゐるおとこ
前頭　ぬうぶくろとつう〜男
前頭　たふけ〜うけて　ゆんとともるもの
前頭　ゆ〜くゆ〜のうけと　とうまゆ〜くの
前頭　見ずもろ〜ゑの安まついて　あるいてもうろする人
前頭　僧つよろ〜ゆうまてゐる人　ゐとろ〜きてゐんでゐるゐへ
前頭　ゐ〜ゐゐゐゐゐゐゐゐて　ひさろうさ〜ゑてくるへ
前頭　ゐうろんつゐゐもてふ　ふるといはゐる人
前頭　川ぐひ〜網うけてゐるの　い綿ろうてあぐうくち
前頭　ゐべうゐゐゐうけすると　ゑて見てゐる人
前頭　川ぐうふゐゐあけ　さげてつさゐる人
行司　むすとふゐゐんと　うける頭化

差添人　上下のすそと　ふまへてこけ〜人

西之方

大関　あ〜あふてそぐしふあ〜ずと　ぢ〜ぐさたつさゐとびわるく
関脇　かようさ〜へおさて　うゐの下ひさ結る男
小結　女づまとさそ〜て　あんとうのちもる人
前頭　せ門さのことうと　女房ないそん人
前頭　めく〜のゐひさと　する人
前頭　女帛りふて　ふ〜まるさゐく
前頭　けぐ〜そかんぞへ　うよう〜の
前頭　そうまへのもさのら　するおとと
前頭　みぞぐさとあ門て　ふ〜うぐる人
前頭　ゐゐむりてうかゐ　てんぐうかゐもさく
前頭　さひさゐう〜そ　ふゐせあいたとこつうゐ
前頭　わう〜ゐとてゐ　のるおこに
前頭　さ色のさ〜おう　ま〜ま〜ゐ
前頭　うんぞんであさゐと　うゐ人
頭取　我立矢〜てんの　ゐとゐまゐるゐ

東海道五十三驛道案内



暁鐘成書畫一筆

諸法大師四目錄占

八卦	三	八	二	六	七	五
得物	おしめり	おしめり	おしめり	おしめり	あれども おそし	おしめり
待人	きたる	きたる	きたらず	きたる	きたらず	きたる
出行	くるむ よろこび	よろこび	よろこび	よろこび	よろこび	よろこぶ
出産	男	女	女	男	女	男
善悪	冥 うらべ	よし	よし	よし	冥 うらべ	よし
疾病	わんぜん する	あらたく	あらたく	あらたく	あらたく	あらたく
方指	北	南 きたる	ひがし きたる	西	わし	きたる 東
時指	巳 八ツ	未 七ツ 巳 七ツ	未 七ツ 未 六ツ	未 九ツ 巳 八ツ 巳 七ツ	巳 九ツ 巳 八ツ 巳 七ツ	未 九ツ 未 六ツ 巳 九ツ
失物	うせず 出べし	人とり 人とり	人とり 出べし	うせず 出べし	人とり 出べし	うせず 出べし
勝負	うつ	決まらず	まける	まけず	うつ	まけず
軽重	あるべ	かるし	うるし	かるし	おもし	おもし

右の八卦の名とへば北の方の八月十日八時なれば先北をおさめ上の三を上とし次に十とし次に八とし次に八とし次に二とし次に六とし次に七とし次に五とし次に三

伊勢参宮獨案内

外宮 山田
内宮 宇治
初瀬
三輪
奈良
大坂
京
宇治
大津
淀
津
上野
山田
桑名
四日市
伊勢
東寺
石清水
宇治
田丸
柳川
松坂
六ノ木
月本
久居
彩田
あの
あま
水口
坂の下
関
亀山
鈴鹿
桑名
尼ヶ崎
淀川

年中貯食物秘傳

前編

干蕨の法

若きわらびをむして皮をとり昆布の如く拡げてあらい莚にのせ夜露にあらしてあくを抜き湯にひたしあげて料理するべし

漬竿干筆の製法

竹のあらけをとり根のかたまりをきりすて二寸ばかり長の目一杯にわけの中へいれもやうのかたち上かすりとうけくらい墨の時よくしぼりてつかふべし

○又竹のあらけをとりあらひ日かりにあたし日の時白水にひたしやまびてつかふなり

茄子林子漬の製法

秋なすびの若やわらかなるをつけものにしてつかふとわれやすし

又茄子をうすねぎひとつ切にしてよくねぶりとり切りにしてとうしよくくるまにて中へいれしてとうしよくくるまにてやまとよりもとうしよくくるまにて一升ばかり一枚ぞのようにかぶせ毒の中へいれしてよく上にかのかすびしやぐ又千上にてやぐ

いしまかもやはらかにしてすべのかまぐもふたとてつかれにて固げしてうすにて三十日ばかりにてとれやすし

漬松茸の法

わらけの中ごとにかけてぢくのばとうかしまとかに三杯ばかり入れうしにわらけを入れふたをしてあくとれをよくさらしあらためもかぶけこのかをしてとりとりてたくさん用ゆる

抽餅子の製法

竹ふしの角ばかりを薄くきりうしにてとりとりてもくもくとうくくく

年中貯食物秘傳

白瓜奈良漬の製法

一白瓜を二つ三つ中ほどまで切り
よくあらいとり汁ふりかけ塩ハゼ
目入れ桶へ並べ蓋をもうさ〇
蓋として重石をかけ二日ばかり
てとり出し其塩しるをよくひき
けのかるくなれば日に瓜糟をう
ぶりぬり桶の底へ敷き瓜と瓜と
つき合わせ並べ又糟を敷き塩
をふりかけ並べ瓜と瓜つき合
わせ並べ糟をふりかけ瓜と瓜
つき合わせ並べ糟をふりかけ
並べ瓜すべて桶へ入れ蓋をし
ばらくおけば味よし〇

茄子奈良漬の製法

茄子を切りて塩をつけよくあらい
とり汁をふりかけ桶へ並べ瓜と
瓜つき合わせ並べ糟をふりかけ
並べ瓜すべて桶へ入れ蓋をし
ばらくおけば味よし〇
つるの間瓜と同じく茄子を漬
びつきに並べ糟をふりかけ
同じ法にて漬るなり茄子の目
を合わせ合わせ並べ
ぶん瓜のごとくにして漬べし

蕪千枚漬の法

蕪の大きなるを薄く切り
ぬかをふりかけ塩をふりかけ
揉みよく絞りて蕪の間へ
ぬかをふりかけ並べ
ぬかをふりかけ並べ
ぬかをふりかけ並べ

見立相撲

今井泰丸戯作

勧進元　忠臣蔵

東之方

大関　東国より　鎌倉殿
関脇　みちハ　かぐら
小結　おびハ　小ぐら
前頭　ものせハ　ぐら
前頭　ちらの　やぐら
前頭　花　ハ　さくら
前頭　おびさ　ぐら
前頭　酒の肴ハ　ぐら
前頭　さんしゅハ　ぐら
前頭　ちさしハ　おぐら
前頭　すぐれハ　ぐら
前頭　かんこんハ　ぐら
前頭　糸ゑさ　ぐら
前頭　とりハ　ぐら
前頭　大ぐらて　ぐら

西之方

大関　西のうちハ　ちぐら
関脇　神ちハ　みてぐら
小結　祝ごんハ　いぐら
前頭　せうぬんハ　ゆぐら
前頭　祝るまハ　まぐら
前頭　だいじの　まぐら
前頭　いしまん　ちぐら
前頭　ようふるハ　ぐら
前頭　ぎゑんさん　ぐら
前頭　やんぐるハ　ぐら
前頭　信朔の　やぐら
前頭　ちとある　ぐら
前頭　大坂上所　たぐら
前頭　祝日とる　つぐら
前頭　垂幕ハ　ぐら

行司　世話人

山　ぐま
峠　ぐら
瀧　ぐらじの

浮世はりまぜ

勸進元　智者のびんぼう

大関　関脇　小結　前頭

けいせいの茶うけ酒
金のちれ袖たび
茶ふくれけいづかぶん
出家のうぞまろ
きひらいれみよう姫
ゆやれふ書生
あらく人のかミ
まくらたの江戸前
大工れ茶の
雲女のかくもん
冒頭角ん
小むすこの信心者
小姫れ講釈ぢれ
お買れさんやう
めらの芝居
すふ元の会仏講
あたのふ様れよ
神ニ重れきつまつ
おく屋のまづ
たいと持れうん

差添人　あほうの恵子

よいしれ安筆
後家のいやみ
びんぼうのうらひ
茶やれ庵くつ
百姓の長脇
尼のみじまひ
お醫者のつぶるげ
絵師の浮まり
商人のち平乐
山伏のさちがひ
でれちのあまま
下女れ実ぐひ
傳のさいい
うみのひれ碁うち
嫁のぶ汁ぢれ
男の森れけいこ
石者れうけおち
お西しやのあ
みこれは庵
ぢさんの後者ひいき

行司　祝仁れすいぐり
ぢく屋のやつ

世話人　くどういのせきさ
元金のちり袋

忠臣蔵柳樽 初編

○川柳点の句は数〻穴を穿つ

月影ざくおうる鼠てとる
左文字

さー紙は
去やーき出と
かくおうる

かん平の母ハ生涯
名を付ず

聟夫の茶のゑもりこむ内ゑん

天川屋武ゑもん

いちかの真主うそ〻石たづき

一力ハ根板ハ破られ石いうせ

石のいとなそ
るゑやれな
客とい〻

掃さゑのにな
いぶうーと
ゑまひーやれ

伴内は
驚つき
さひと
石うひ

その後ハ
勘平の
かー蒲団

ふとん一俵ゑー

金ゑでき
うるゑ素ゑの
積りまる

おはゑこの火けー
乃具と義平ひ

忍びの乃具ゑ
中だゑひ

山崎ゑ
後家の
貧生ゑ

いつゑでき

驚くさハ石を
もて来ゑ
大ゑひ

建磨ゑ入ゑ
とれるとつ
力弥

行ゑけゑ素ゑ
三方を母ゑ

山科ゑ一日ゑ二人後家ゑでき

下女のりん
破三方ゑ
たき付る

婚礼と葬れゑ
祥禅ゑされば

勘平の母ハ不時ゑ浮世

親と子ゑ浮世
一分の
證ゑせ

障子おゑ
ゑれゑ
ゑひ
夜の雪

忠臣蔵九段目柳樽

貳編

用心よの蟹のくまとりを

男ふ弥五郎

諸士三人にやまり入る

親よりおゞ手おどりのいのゝご饌をあみ

新造うひ

奥さまの踊り宰領きもつぶ〜

足九郎ひのちの教と怪ハい〜

一好ぶつのけぐ定九郎身をたに

六月ゝ綿へのうゝ大よにのゝ

雪三里たを仲居へ

国りきり

雪仲居くゝど取ぐ

駕よのつく

去ぐみよ新内

手ぢろて雪をけ〜

百日をまゝ

かもじをへく待ひ

雪このつい解ふく

親のおぎく

忠臣蔵兜さぐり柳樽

三編

初ぜつく程よかあよいあるべくもく

直よしの師直

真向

屋月なり

曽よりの花のかゝよの

蘭しゃ待

目ぶよりの鼻ぐ

そうの出ば

蘭奢待

そろりと伐く

刀の木波を

ふき

松さるる

吉例よまる挑の井家

主の命金ぐく買とる白蘭

九年余

捨と竹雪ゑ吹

この仇く坂

高

やく

勘平

忠と義ゑ

松を

竹を

ふき

師直へ見ても

墨を摺

損むなり

道

師直

義士のよる

青摘

刀の名

つよし

兼

茶屋なら

軍用金ぐ

寺へ六無垢湯

角ゑ

墨弥八

礼も

知耳と唱男の

双玉

鉄炮と

矢挾間の

おのく

小提燈

山嵩へまつ

かり植の

細葱

よゝ人の知こ若売

勘平どの

勘平八月やに

かるべき

一期なり

忠臣蔵花見の柳樽

四編

本蔵ハあんやらやらと抱きとめ
剣のたとへよ鯉口を拔むなし
亡骸上りごろよハ
酔ぬ井戸の剣
五百石
抱くと
五万石

禁師寺ハ
治良りくと
ねめまはし
牙を義士
ぎしくく
かんぐ
塩のまく見く上野い
ゐめ遁る

塩くと国を
たなれる残念さ
呂ハ恵
君ハ
短慮よ
身を
小夜ろろも終よ
やぶれく
疵だらけ
九寸五寸一寸のも引ぬ国家老
ちらくさよ鉄ちく
あんざ赤穂のくを
名の高ひ
忠ハ塩やの内のくく
未世まのく
外よ双と
ない巴
何の晩よ
行くや
よんよと
かる悔く
る留ざと
判官あら
あくぬ
取

忠臣蔵柳樽

六編

かんさしの忠と不忠の中へおち

げぶ六と見せく
あくろハ
ゑひもせず

ぐうろうも敵を
うつの計畧

げぶ六の仕うち末世のかゝ也

由良おにい手のゐるやうを捕へる

けいせいの
名よ
おうる
とい
叫ゝ
めき

そりこゝ
みゝ
びつくり
こゞれ松

侍の犬も
やつぱり
えんしゝ
縁の下

銀あしゞ
よいと
九太夫
手を
のむ

九太夫ハ手のうゝぞ
ふむ猫のふん

伯人よ
おつくも
おうる名きゝ

ちゝくつゝ報ひく
おうる
祇園町

壹人も
女の先をぬ
かゝ手ちん

平右ゑ門
いもとよ
ひゝい
無心
なり

重ひのい
いの字
狂ひい
すの字
なり

疝ひ身ぐ
おもひ一味のぐゝ入

ちうとうとを
見せく一味のぐゝより

忠臣蔵ひさご柳樽

七編

生酔のさんたんを
由良のもけ

計畧ぶく
おく魂しいハ
赤いこゝ

家老ちう
ち〜ゆハい
さびぬ
赤いこゝ

足ハくひ
其手ハ
くさぬ
由良之助

精進を
おち用ゝんを
止させる

鯉ロを噛せバ
ちゃんと起上アと

九太夫ハ佐用姫とこそ茅子のもけ

悪口で
ない
蜘の
巣ゝ

九太こまり

九太夫が敵賊
まるく
損ゝなり

蜻の意趣
いゝこゝ
心地よさ

石化こく
星とまつる
俗名手本

生酔の損人ゝ
九太ハよん出會

黒吉の口へ
くゝせる蜻ざゝる

松の内
ゆ〜大尽の
うく遠ひ

おゝもうん
由良さんの
日ゝ
みんな
ゝゝ

金閣寺ちぐハ
おいしーも
和ゝふ

手踊りの
きのふよ
今日ハ
似ぬ戸奈瀬

半月の
茶代賃
諸支方支

アん味ぐ
かけたうん
雪のあさ

極月ゝおひまゞ
出るゝ
林ごまり

炭部屋を
さゞんハ冬の
敵ゝち

下女のアん赤まひ洗濯汚れもの

炭部や
まづ
ひ十七
くふるせる

紫べやの屋ゝ師直
たれおさめ

忠臣蔵花さぐら柳樽

八編

朝もどり
敷居の
ひくい
出良ろ和

親子
四十五人の
世活をやき

内蔵へひそく
四十五人くる

侍の女中が
そくとつん
さこぎ

長持へ義士く
つめる
天川屋

京の字へ
いれく
やりくひ
天川や

薄僧の孫ざう者と
あんいん

三日さきく本蔵いきつくる

九段目の切へ
地口を一句
いれ

歳暮よ
進上
白髪く

翌の夜の手配りをする支度
下女丁推その名の高ひ假名手本

朝
一里半くる雪くら

下女のつん
半鐘おどる
声を出

忠と義の重荷を
おくる天川や

山科く幇間
くぐく
六の花

忠臣蔵花さぐら柳樽

九編

一大竹をくゝる百奴も青い貝

一なげ音ぐ大竹もつく

一まる作屋

一門戸をバとぢく

一平氣ぐ花を生

一大さるる

一わらゝび只ハ

一小夜ごろも

一氣やをめを

一去ほまふ

一右馬の介

一豆ゝハ際ごと

一部門をとぢ

一八重九重

一生さ其沢ぐ

一城

一破れさる屏風谷

一さゝぎ

一むるの

一泉ゝけの仲人まる

一雪の朝火ぢゝの

一たゝぬ泉岳

一某師寺ハ何とぐ

一生花の評を

一ゆらくぐ

一由良丸太の

一ぬゝらゝ

一みどく

一封閉

一やれ

一一カハ明家へ

一せいぼ持くくる

一主従ぐ

一四十八鷹

一安心ぐ

一義士ぐ

一名をのこ

一いゝ絲むる

一泉

一俺住居

一くぐ山科

一名ゞ高

一雑炊も丸太夫ハ

一水由良ハ蜘

一塩を出く

一月の名刷へ

一名をのこ残

一納豆を

一春まく

一のむに

一泉岳寺

忠臣蔵花さだ柳樽

十編

牛込と芝へ呼れる
首と胴

夜の要
そばや
火消と
おりひ
つめ

声を帆よ
あげて
偽首
陸を行

首と胴 万昌院へ二度よくる

火消とハ遠ふやぐと四向院

其年の市ハ本町へ皆まるり
山とうけれバ山と
殺される

四向院まぐる
早鐘づく
ところ

んどんや初午ハ押こゝ
だと思ひ

畳ろ〳〵蕎麦を
夜うちが座ろ〳〵

孝よ倍
ひとつ扣へさ
偽名の忠

四十八ふハ
不忠の
家来なり

江戸の本もう
京の字がるく〳〵
御

竹をゝど十一段の夜うちなり

いろは武士
誉れハ偽名の
唐よちひ

其余ハ塩目の
こるひ家来
なり

洋ぎりよゝても
苟字よ塩をのれ

忠臣蔵花ごよみ柳樽

十編

一金てつの忠義を石ぞく組なくる

一由良之助よいの明星よりひろう

一弘法の作一字づゝ家老ヨケ

一津浪おど塩の入こむ一やしき

一大石の車ゝハ四十七ゝ月

一忠の字をいさぐき

一塩の恩水よせぬのハ

四十七

一初手もいろ

求もいろはの

敵うち

一星ぐ出く

朝の恨ゝを

夜ちゝ

一定紋のきれるハ

偽名ぐ

一忠臣の

墨ゝ

天下一

一裏おもく字くずりをする

偽名ぐら

一大石の子よちゝとハ

きつい夏

一不破と堰

よくも

飛ぐり

數奇門

一笛の音ヨちりぬる

いろは

孫息

一大石のちゝとも

なる

一日本ゝ二面とハなの武のがゝ

一世二世そゝ三世の

仇を討

一裏門をちゝら

任せるぶつかをゝ

一主税と

力弥

ハ

後ゝ

だと

知らぐは

四十七

一やせゝ

力弥を

義士仲間

ゑぶる

忠臣蔵花さぐら柳樽

土編

門番をさるへ余計の仕皮なり

門番の奴

先手

夜討

拔身をふつゝ

下部・みげ

上野こ

ものれちやゝんと

最期白むくゞ屋ごゝけ

門の良まゝく

炭ゞく

ようこそ

なり

本望さ

矢さゝの

鶏ゝ

赤穂ゝより

赤穂ゝはの

弾情

炭部やハ

おゝろゝ

大のゝう

水の屋

師宿いひ

熊野炭

白ひ塩の俵をハ

黒ひ炭ゝ討

ゝの二月うゝく

とゝ砌をなゝく

祇討モウすゝ部やと義士ハ

祝おけゝぐ四百七人

わどゝ見へ

一世二世さゝく

ようちの本望さ

空蟬のもぬけの

床を義士さゞり

手をいれゝ

夜具の湯ゝゞん

見る夜ゝち

忠臣蔵穴さがし柳樽

十三編

忠臣蔵忠義柳樽

古編

一碧る朝雲卯
やれさ傘
ひろひ

一金魚ごよも
ちらん
動乃の
紅葉ぐさ

一長持へ尿瓶を
いれる
由良の
まけ

一村芝居
蛇の目よ
ちまる
定九郎

一伊吾いさら
殺されふうと
身をちゞめ

一伊吾を
よぶ
のごよ
芋壺
ちうちゝ

一半手本と
なり〳〵諸方へ

一尼こなる
便りも

一尼つけられ

一さけの赤穂のとバよも
塩ひるむ石

一義士とらひ提燈ハ
みな忠と
つき

一拝へくれると
恒小あゝ

一師直
きれぬ前

一百日ハ尼と
嫉この合言葉

一女房ハ髪を切られ〳〵尼〳〵や

一共音を
ぎ〳〵
黄ふ〳〵ち
よ

一師直の寺ハ
のれちと言くま〳〵

一がよく
ハ
仮よ川よのかさき
うち

一ものいぜんの内利益も
戸ハ
えづれ

一赤世まく
大槌の
株ハ
手車門

一大槌の
株ハ
作ハい
手車門

忠臣蔵 花さぐら柳樽 五編

富士ハ孝
鷹ハ
忠義の
夜討
なり

一不二
ニハ鷹
主のため
親の仇

富士と鷹ハこれ
忠孝の敵討

忠孝の夜ハ雪と郭公

大石も曾我も
手段の茶屋くるひ

鉄石の忠臣なりし
むつ塩治

鉄ハ忠
父ハ不忠の
えんの下

本望さ首尾の首の字を墓へなげ

雪のなかの大勢首のせんだく

餅搗も煤とりもなぐ義士の説

雪の中とや仇討の
次第くり

○これハばさびの初てんかぬくふ
おりく謝月十四日の夜
四十七人かさき
うちのしぐれ
ちるく紙代ぐるぐる八文

北日本京も夜討の次第うり

山科の家主夜ものの次第買ひ

忠臣蔵穴さぐり柳樽 十六編

浅野内匠頭家来大石内蔵助良雄
忠誠院 双空淨劔居士
元禄十六癸未年二月四日 行年四十五才

吉田忠左衛門義周
双仲光劔信士
行年六十三

原宗右衛門元辰
双峯毛劔信士
行年廿六

庁田源太左衛門高房
双嘉毋劔信士
行年三十七

間瀬久大夫正明
双雲道劔信士
行年六十三

小野寺十内秀和
双以串劔信士
行年六十一

間喜兵衛光延
双泉如劔信士
行年六十九

磯貝十良左衛門正久
双周求劔信士
行年二十五

堤部弥兵衛金丸
双毛知劔信士
行年七十七

近松勘六行重
双隨露劔信士
行年二十四

富森助左衛門正因
双勇相劔信士
行年三十四

大石瀬左衛門信清
双寛德劔信士
行年二十七

矢田五良左衛門助武
双法参劔信士
行年二十九

奥田孫太夫重盛
双察周劔信士
行年五十七

赤埴源蔵重賢
双廣忠劔信士
行年三十九

早水藤左衛門満尭
双破了劔信士
行年四十

潮田又之丞高教
双窓空劔信士
行年三十九

岡嶋八十左衛門常樹
双袖拂劔信士
行年三十八

吉田沢左衛門兼貞
双當掛劔信士
行年二十九

武林唯七隆重
双性春劔信士
行年三十二

倉橋傳助武幸
双煆錬劔信士
行年三十四

間新六光興
双横唯劔信士
行年二十二

忠臣藏ちうしんぐら

偽忠臣蔵

柳亭 士編

大石主税良金
刃上樹剣信士
行年十六

堀部安兵衛武庸
刃雲運剣信士
行年三十四

中村勘助正辰
刃露白剣信士
行年四十五

菅谷半之丞正利
刃水流剣信士
行年四十四

不破数右衛門正種
刃覇祖剣信士
行年三十四

千馬三郎兵衛光忠
刃道五剣信士
行年五十二

木村岡左衛門貞行
刃通普剣信士
行年四十六

岡野金右衛門包秀
刃回逸剣信士
行年二十四

貝賀弥左衛門友信
刃電石剣信士
行年五十四

大高源吾忠雄
刃無一剣信士
行年三十二

村松喜兵衛秀直
刃有梅剣信士
行年六十二

杉野十平次次房
刃可仁剣信士
行年二十八

勝田新左衛門武尭
刃量震剣信士
行年二十四

前原伊助宗房
刃補天剣信士
行年四十

小野寺幸左衛門秀富
刃風颯剣信士
行年二十八

神崎与五郎則休
刃利教剣信士
行年二十八

三村治良左衛門包常
刃珊瑚剣信士
行年三十二

横川勘平宗利
刃常水剣信士
行年二十二

茅野和助常成
刃郷雪撫剣信士
行年三十七

間瀬孫九郎正辰
刃太及剣信士
行年二十二

村松三太夫高直
刃清元剣信士
行年二十七

夫頭左衛門七敬兼
刃擲振剣信士
行年十八

奥田定右衛門行高
刃飛跳剣信士
行年二十八

間十次郎光興
刃澤藏剣信士
行年二十六